

※1キロ粒剤・フロアブルのみ

※ジャンボ剤を除く

水稲用 初・中期一発処理除草剤

# ラオウ®

1キロ粒剤 ジャンボ フロアブル

# 水田除草の 勝者と 成る。

ノビエ

ホタルイ

オモダカ



4成分で除草を制す。



※商品画像はイメージです。®はクマイ化学工業(株)の登録商標

- 有効成分：ダイムロン…6.0% (1キロ粒剤)、2.4.0% (ジャンボ)、1.1.3% (フロアブル)  
フェノキサスルホン…1.5% (1キロ粒剤)、6.0% (ジャンボ)、2.8% (フロアブル)  
フェンキトリオン…2.5% (1キロ粒剤)、1.0.0% (ジャンボ)、4.7% (フロアブル)  
ペンスルフロンメチル…0.75% (1キロ粒剤)、3.0% (ジャンボ)、1.4% (フロアブル)
- 人畜毒性：普通毒 (毒劇物に該当しないものを指すという通称)

## 特長

- 有効成分「エフィーダ® (一般名：フェンキトリオン)」を配合した4成分の混合剤です。
- エフィーダ配合により水稲安全性が高く、広葉雑草に幅広く効果を示し、特にホタルイなどのカヤツリグサ科雑草に高い効果を発揮します。
- ペンスルフロンメチル配合により多年生難防除雑草に高い効果を示します。
- フェノキサスルホン配合によりノビエに優れた除草効果と長期残効性を示します。

## 適用雑草及び使用方法

2021年12月22日現在の登録内容

\*各有効成分を含む農薬の総使用回数:ダイムロン3回以内 (移植水稲:育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)、2回以内 (直播水稲)、フェノキサスルホン2回以内、フェンキトリオン2回以内、ペンスルフロンメチル2回以内

### 1キロ粒剤 (農林水産省登録 第24579号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg	1回*	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで			
直播水稲	一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布

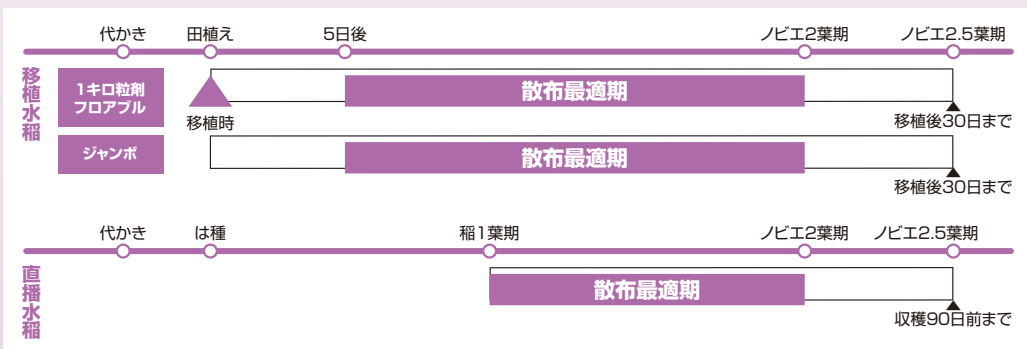
### ジャンボ (農林水産省登録 第24580号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (250g)	1回*	水田に小包装(パック) のまま投入する。
		稲1葉期～ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			
直播水稲	一年生雑草及びホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			

### フロアブル (農林水産省登録 第24581号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ	移植時	500mℓ	1回*	原液湛水散布 又は水口施用
		移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで			
直播水稲	一年生雑草及びマツバ イ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			原液湛水散布

## 上手な使い方



## ■使用上の注意 (抜粋)

- 【共通】
  - 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なもので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ミズガヤツリ(1キロ粒剤)、ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリ(1キロ粒剤を除く)は草丈1.0cmまで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離(1キロ粒剤)は発生前までが本剤の散布適期です。
  - オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のもめでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
  - 苗の植付けが均一となるように、代かき及び植付作業は行っていないで行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特に注意して行ってください。
  - 以下のような条件下では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
    - 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
    - 活着遅延を生じるような異常低温の時
    - 砂質土壌の水田および漏水田(湛水深2cm/日以上)
    - 軟弱苗を移植した水田
    - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
    - 植穴の戻りの悪い水田
  - 直播水稲に使用する場合は、以下の点に注意してください。
    - 稲の根が露出した条件下では葉害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
    - 除草効果の低下と生育抑制の葉害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
  - 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけてください。
  - 散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないでください。
  - 本剤はその殺草特性から、いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意してください。
  - 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを认真阅读し、十分に注意するほか、別途提供されている技術情報も参考に使用してください。特に初めて使用する場合は、異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 【1キロ粒剤】
  - 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
  - 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
    - 湛水散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
    - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
    - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の角度を調整してください。
    - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインバロの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布してください。
    - 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
- 【ジャンボ】
  - 散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
  - 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
  - 小包装(パック)のまま10アール当り10個の割合で水田に均一に投入してください。
  - 葉類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、原液湛水又は水口施用を、本田内水田全面に散布してください。
  - 無人航空機で原液湛水散布する際は以下に注意してください。
    - 原液湛水散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
    - 原液湛水散布に当たっては噴霧ノズルは使用しないでください。
    - 作業中、薬剤の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
    - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう風の影響等を十分考慮して原液湛水散布してください。
    - 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
    - 薬剤散布に使用した装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
    - 散布に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないでください。
    - 畜に対して影響があるので、周辺の養鶏にはかからないようにしてください。
- 【フロアブル】
  - 本剤の使用に当たっては、使用前に容器をよく振ってください。
  - 原液湛水散布の場合は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)のまま水田全面にゆきわたるように散布してください。散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
  - 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意してください。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
  - 葉類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、原液湛水又は水口施用を、本田内水田全面に散布してください。
  - 無人航空機で原液湛水散布する際は以下に注意してください。
    - 原液湛水散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
    - 原液湛水散布に当たっては噴霧ノズルは使用しないでください。
    - 作業中、薬剤の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
    - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう風の影響等を十分考慮して原液湛水散布してください。
    - 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意してください。
    - 薬剤散布に使用した装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
    - 散布に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないでください。
    - 畜に対して影響があるので、周辺の養鶏にはかからないようにしてください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。

1キロ粒剤



ジャンボ



フロアブル



●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2021年12月22日現在の知見に基づき作成しています。 2346(24-3)